

2021年3月期 上期 決算概要

2020年11月5日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

売上・利益ともに通期ガイダンスに対し早めの進捗

(億円)

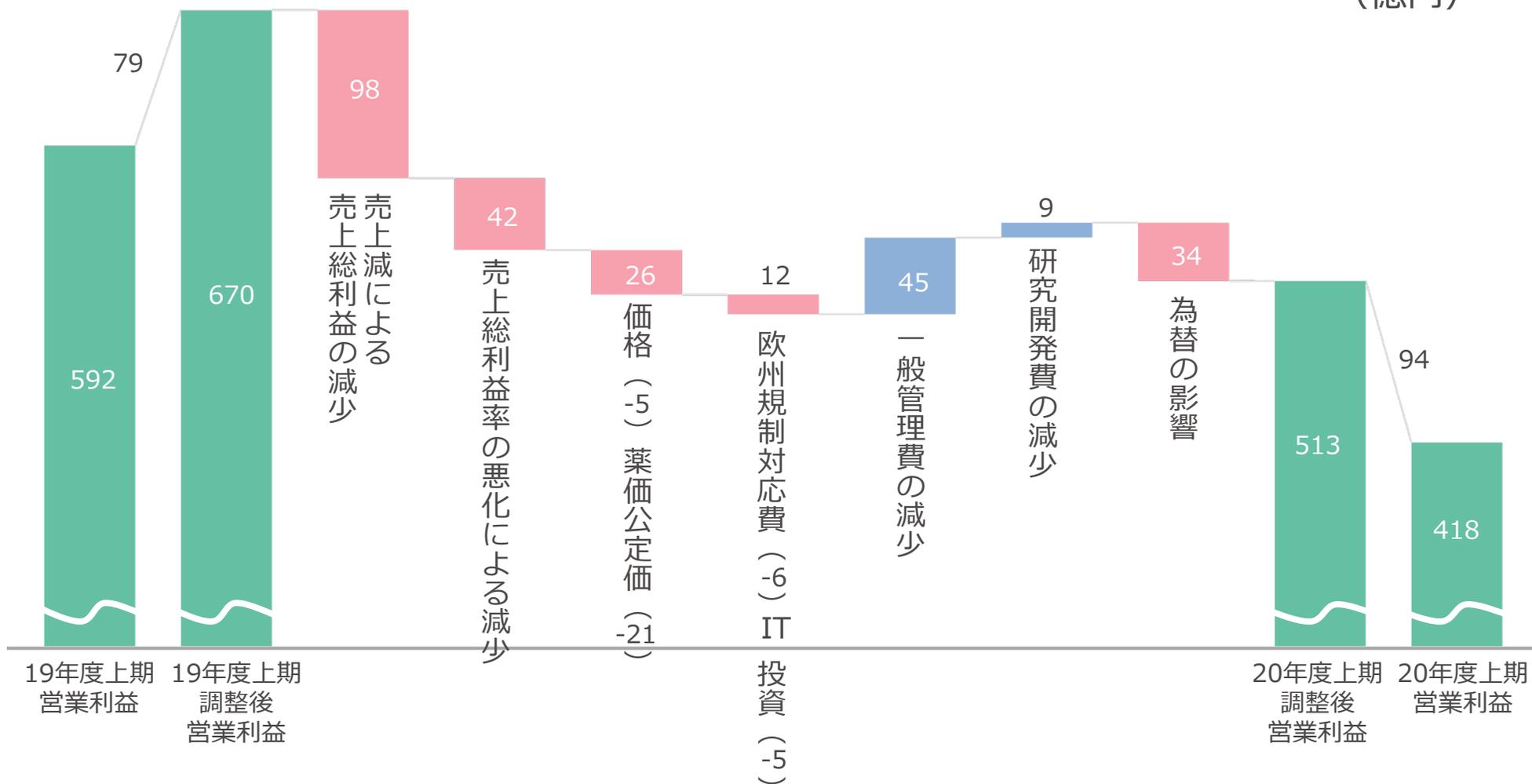
	19年度上期	20年度上期	増減率	為替除く 増減率
売上収益	3,073	2,833	-8%	-6%
売上総利益	1,715 (55.8%)	1,505 (53.1%)	-12%	-9%
一般管理費	896 (29.2%)	859 (30.3%)	-4%	-3%
研究開発費	243 (7.9%)	231 (8.2%)	-5%	-4%
その他収益費用	16	4	-	-
営業利益	592 (19.2%)	418 (14.8%)	-29%	-24%
調整後営業利益	670 (21.8%)	513 (18.1%)	-24%	-19%
税引前利益	581 (18.9%)	407 (14.4%)	-30%	
当期利益	457 (14.9%)	318 (11.2%)	-30%	

期中平均レート	USD	109円	107円
	EUR	121円	121円

- 売上収益：心臓血管の需要が顕著に回復。他のカンパニーへの新型コロナ影響は依然として軽微
- 調整後営業利益：売上減少による減益。一般管理費、研究開発費はメリハリをつけたコントロール

調整後営業利益増減分析

(億円)

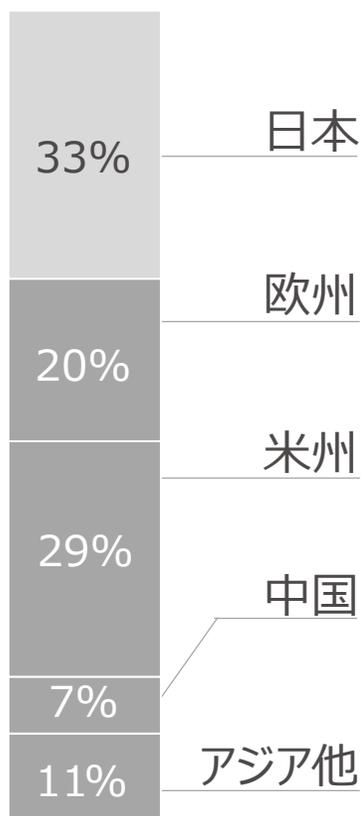


地域別売上収益

20年度上期
19年度上期

売上収益

100% = 2,833億円



売上収益前年比較

金額(億円)	増減率	コメント
() 内は為替影響除く		
935 959	-3%	心臓血管はQ1からQ2にかけて回復傾向。ホスピタルではアライアンス・疼痛緩和の新製品や感染対策製品が寄与
555 583	-5% (-5%)	心臓血管は回復し、Q2単体はプラス伸長に。ホスピタルと血液・細胞テクノロジーは一桁後半から二桁伸長と堅調
825 926	-11% (-8%)	TIS・ニューロを中心に心臓血管は顕著な回復。血液センター向け製品も依然として堅調
203 244	-17% (-15%)	ニューロ代理店の受注タイミングの影響を除いて、全般的に顕著な回復傾向
315 361	-13% (-10%)	心臓血管はインドを中心にスローな回復、血液・細胞テクノロジーは輸血需要減の影響

カンパニー別売上収益

20年度上期
19年度上期

売上収益

100% = 2,833億円

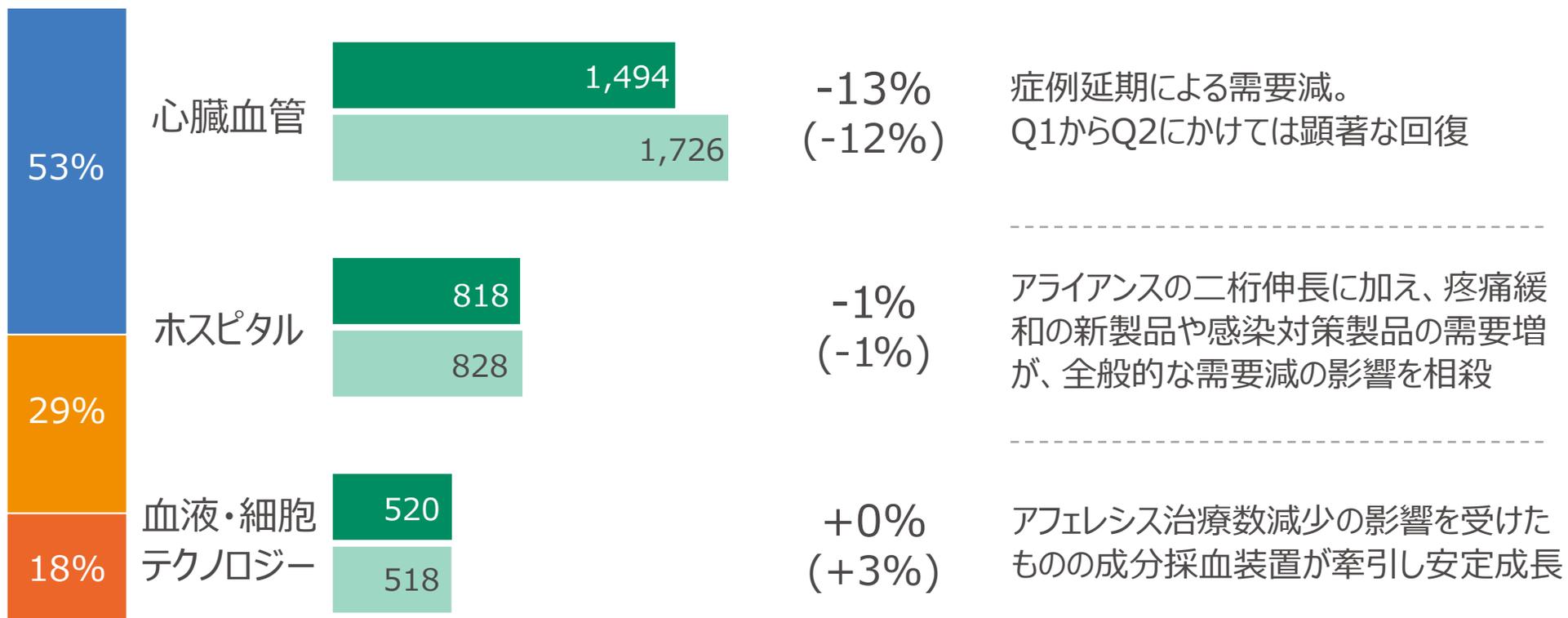
売上収益前年比較

金額(億円)

増減率

コメント

() 内は為替影響除く



心臓血管：症例延期の解消が進む

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	増減率	主なトピック	金額
売上 収益	1,726	1,494	-13% (-12%)	() 内は為替影響除く	
				TIS : 製品群全般に需要減の影響も、 Q1からQ2にかけて顕著な回復	-159
				ニューロ : 脳動脈瘤治療における 症例延期の解消が進む	-45
				CV : 需要減の影響を 日本における装置売上増が緩和	-22
			血管 : 人工血管、ステントグラフトともに 需要が回復傾向	-6	
調整後 営業 利益 (率)	472 (27%)	320 (21%)	-32% (-27%)	売上減による減益。 Q1からQ2にかけて製品ミックスが改善	

ホスピタル：需要減の影響をアライアンスと感染対策製品でカバー

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	増減率	主なトピック	金額
() 内は為替影響除く					
売上 収益	828	818	-1% (-1%)	医療器 : 日本とアジアにおいて診療制限の影響が依然大きい	-29
				医薬品 : 輸液剤の減少を疼痛緩和がカバー	-2
				DM・ヘルスケア: 体温計等ヘルスケア製品の需要増	+8
				アライアンス : 日本・海外ともに二桁伸長	+13
調整後 営業 利益 (率)	126 (15%)	117 (14%)	-7% (-6%)	売上減少に加え、生産稼働率の低下の影響を、アライアンスの好調な売上と、継続的な費用コントロールにより最小化	

血液・細胞テクノロジー：増収増益を継続

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	増減率	主なトピック	金額
() 内は為替影響除く					
売上 収益	518	520	+0% (+3%)	血液センター : 成分採血装置の新ソフトウェアによる牽引。新型コロナ回復期血漿に向けた需要増 アフレスिस治療 : 症例延期による需要減	+16 -10
調整後 営業 利益 (率)	67 (13%)	89 (17%)	+33% (+43%)	製品ミックスによる売上総利益増に加え、費用コントロールが寄与し大幅増益	

業績予想の修正

(億円)

	従来 予想	今回 修正予想	修正額
売上収益	6,000	6,000	±0
営業利益 (率)	850 (14.2%)	900 (15.0%)	+50
調整後営業利益 (率)	1,030 (17.2%)	1,080 (18.0%)	+50
当期利益	650	680	+30

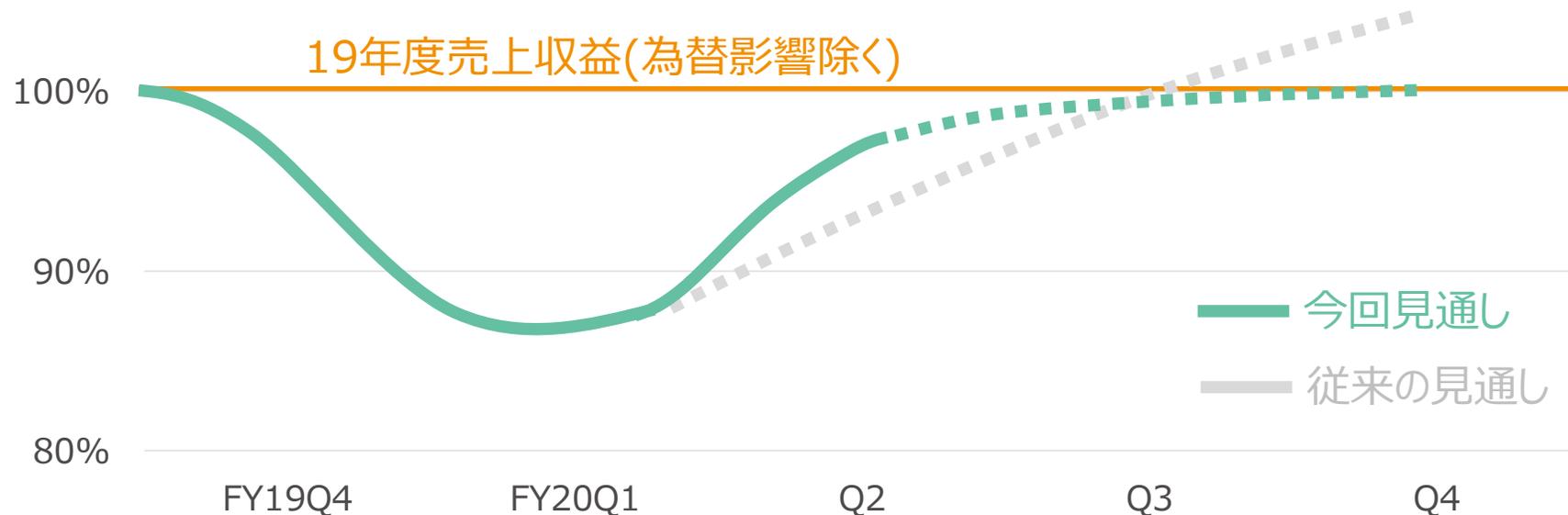
予想為替レート	USD	105円	106円
	EUR	120円	121円

- 上期に想定を上振れした分を織り込んだ修正
- 配当に関し、5月決算時に発表した予想から変更なし

下期見通しの考え方

■ 下期売上は8月の決算発表時点の想定よりもスローな回復

➤ グローバルに受診抑制が続き、新規症例を含め医療需要全体が減少



■ Q1にBCP目的で積み上げた在庫はQ3以降、適正水準へ生産稼働レベルを調整

■ 一般管理費は一定の抑制を効かせつつ、早期回復を図るべく業績を見極めながら適切に投下

■ 研究開発費は中長期成長の観点から、優先順位をつけてコントロール

主なトピックス

全社

- 令和2年7月豪雨の被災地支援として、日本赤十字社などを通じ支援物資を寄贈、義援金を寄付
- 中国ベンチャー・キャピタル「CDキャピタル」のファンドに参画



放射線放出ビーズ
「QuiremSpheres」

心臓血管

- カテーテル肝がん治療用ビーズの開発・生産をするクイレム・メディカル社を買収
- 脚の動脈疾患用ステント「Renzan」の臨床研究を欧州で開始
- 頸動脈用ステント「CASPER Rx」を日本で発売



下肢動脈疾患用ステント
「Renzan」



頸動脈用ステント
「CASPER Rx」

ホスピタル

- 糖尿病領域でMICIN社とデジタル治療支援システムの共同開発を開始
- テルモ山口で製造するアダリムマブのバイオシミラーに関し米国のGMP適合取得



薬剤充填用注射器
「PLAJEX」

血液・細胞 テクノロジー

- スイスにおいて血小板の病原体低減化への「Mirasol」使用の承認取得



病原体低減システム
「Mirasol」

20年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ
心臓	ステーラブルシース	日	
	PTCAバルーン(Essen社製)	中	
イメージング	IVUSカテーテル	日	済み
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧	
	末梢血管塞栓用プラグ	米	
脳	血流改変ステント	日米	済み
	バルーン付きガイドカテーテル	欧	
	頸動脈用ステント	日	済み
	袋状塞栓デバイス (Woven EndoBridgeデバイス)	日	
カーディオ バスキュラー	次世代人工肺	日	済み
	人工心肺装置(再出荷)	日	済み
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル	済み

領域	製品	地域	ローンチ
血管	腹部ステントグラフト	米	済み
医療器	次期シリンジポンプ	日	済み
	次期針刺し防止機構付留置針	日	
	Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜	欧：済み
医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日	済み
DM・ ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日	
	血糖測定システム	日	済み
	次期体温計	日	済み

参考資料

事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	229 (-8%)	1,266 (-13%)	379 (-10%)	572 (-13%)	161 (-19%)	153 (-13%)	1,494 (-12%)
うち TIS+ニューロ	165 (-12%)	1,041 (-13%)	307 (-11%)	460 (-12%)	148 (-21%)	126 (-14%)	1,206 (-13%)
ホスピタル	648 (-0%)	170 (-2%)	46 (+6%)	41 (+9%)	10 (-15%)	73 (-10%)	818 (-1%)
血液・細胞 テクノロジー	57 (-6%)	463 (+4%)	131 (+12%)	212 (+4%)	31 (+20%)	89 (-6%)	520 (+3%)
合計	935 (-3%)	1,898 (-8%)	555 (-5%)	825 (-8%)	203 (-15%)	315 (-10%)	2,833 (-6%)

() 内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	19年度上期	20年度上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	440	456	+16	+4%	+5%
販促費	95	51	-44	-46%	-46%
物流費	68	69	+1	+1%	+2%
償却費	91	95	+5	+5%	+7%
その他	203	188	-15	-7%	-6%
一般管理費計	896 (29.2%)	859 (30.3%)	-37	-4%	-3%
研究開発費	243 (7.9%)	231 (8.2%)	-12	-5%	-4%
販管費合計	1,139 (37.1%)	1,090 (38.5%)	-49	-4%	-3%

四半期の動き

(億円)

	19年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	20年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上収益	1,548	1,629	1,588	1,313	1,520
売上総利益	863 (55.8%)	872 (53.5%)	853 (53.7%)	689 (52.5%)	816 (53.7%)
一般管理費	451 (29.1%)	472 (29.0%)	477 (30.1%)	401 (30.5%)	458 (30.2%)
研究開発費	125 (8.1%)	127 (7.8%)	136 (8.6%)	112 (8.5%)	119 (7.8%)
その他収益費用	13	-2	4	5	-1
営業利益	300 (19.4%)	271 (16.6%)	244 (15.3%)	181 (13.8%)	238 (15.6%)
調整後営業利益	331 (21.4%)	314 (19.3%)	266 (16.7%)	217 (16.5%)	296 (19.5%)

四半期	USD	107円	109円	109円	108円	106円
平均レート	EUR	119円	120円	120円	119円	124円

調整後営業利益：調整額

(億円)

	19年度上期	20年度上期
営業利益	592	418
調整① 買収無形資産の償却費	+78	+72
調整② 一時的な損益	+0	(※) +23
調整後営業利益	670	513

※ 調整項目

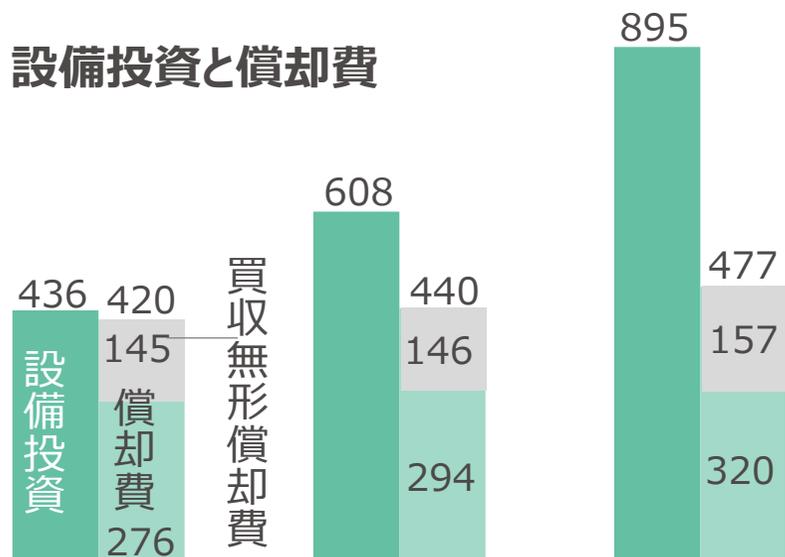
- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

(※)20年度上期 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編費用	+3
その他	+19

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

設備投資と償却費

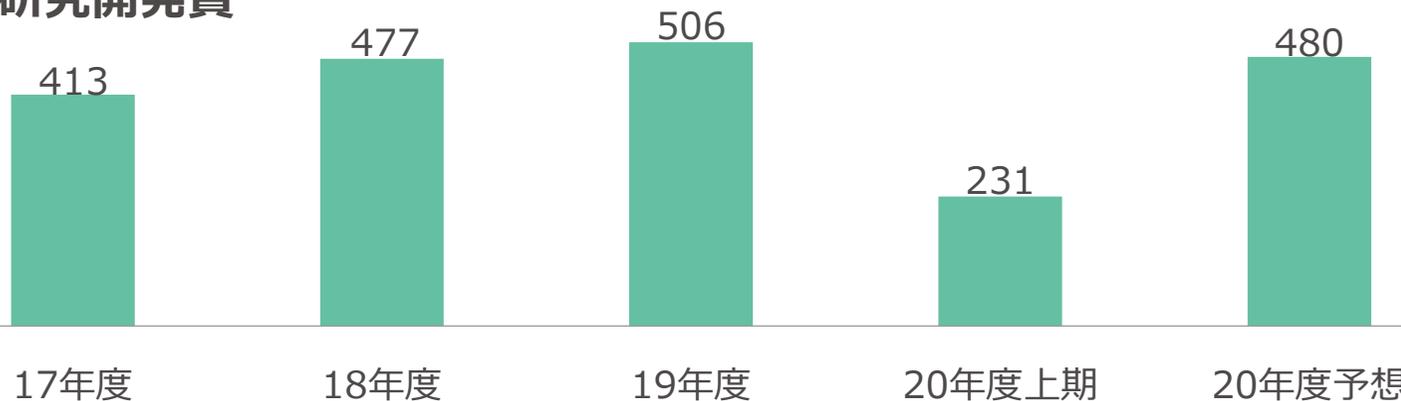


設備投資は建設仮勘定計上ベース

19年度・20年度実績・予想にはリース償却 (IFRS16)含まず

20年度は、増産設備、生産スペース、R&D投資、IT投資を拡大

研究開発費



主にTIS、ニューロ、血液・細胞テクノロジーの開発活動を促進

開発費の資産化は設備投資に含む

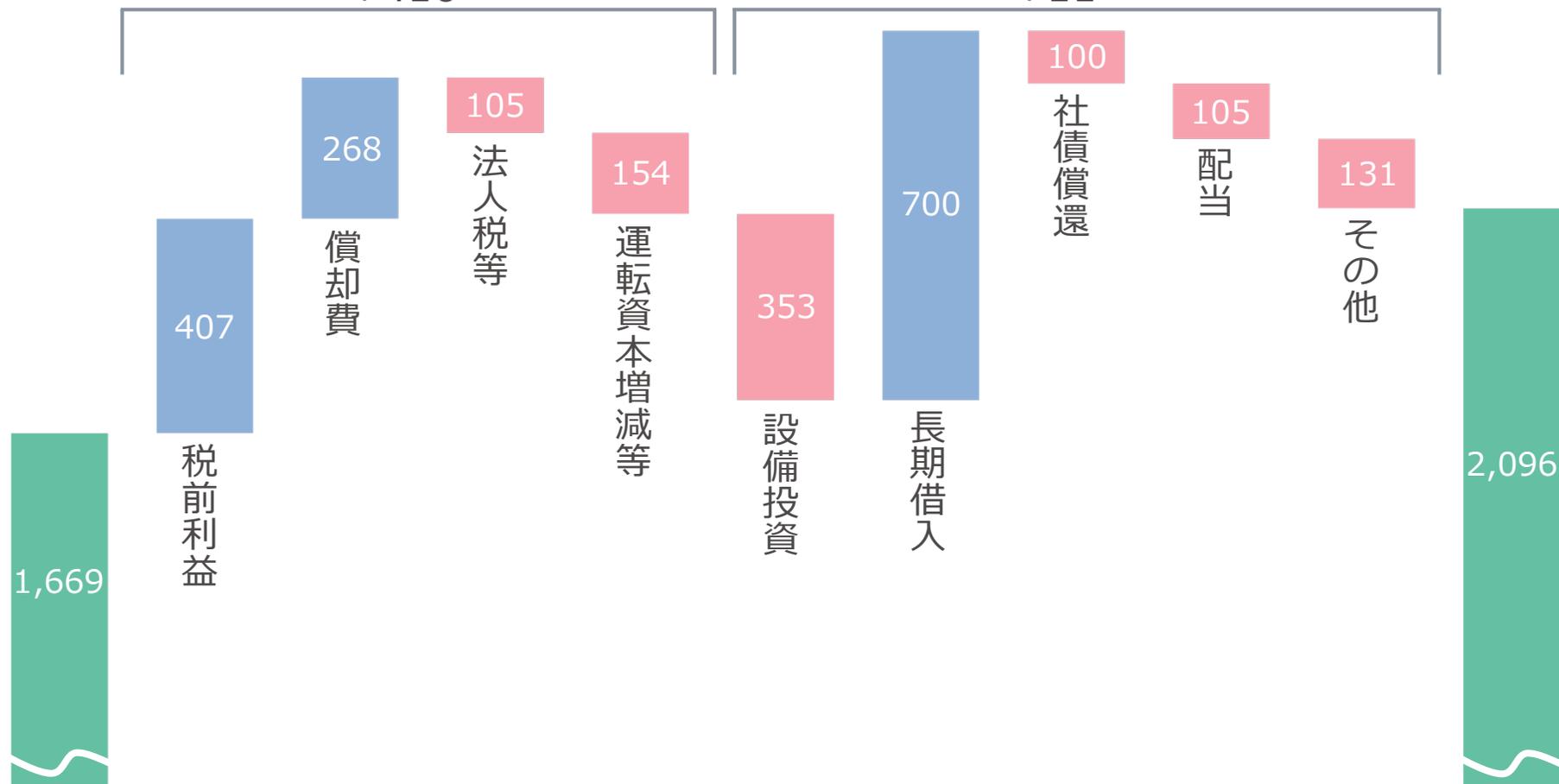
18年度 : 24億円
 19年度 : 48億円
 20年度上期 : 29億円
 20年度予想 : 54億円

キャッシュフロー

営業キャッシュフロー
+416

投資・財務キャッシュフロー
+11

(億円)



19年度末
現預金残高

設備投資は建仮計上ベース
期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合

20年度9月末
現預金残高

為替感応度

1 円の円安に対しての年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

転換社債の状況

社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
計	1,000				約52百万株

転換状況 (2020年10月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	487億円 (97.4%)	25百万株 (3.3%)
合計	987億円 (98.7%)	51百万株 (6.8%)

転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況：4百万株(2020年10月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比0.7%)

